
英語と論理的思考のための

英文法序説

Original Handouts

はじめに

受験英語において、「理解させる講師」「良質な教材」「努力する生徒」は三位一体である。ところが、英文法の良質な教材というものは、あまり見当たらない。そこで多くの受験生の要望に応え、自ら編集することにしたのが、この「英文法序説」である。この英文法序説は、広く魅力に富んだ英文法の世界ではあくまで「序説」に過ぎないが、受験英語という枠組みでは、非常に有効なデータベース・武器として機能する。この教材を以って、受験英語というものの構造を捉え、広い学問の世界への礎とすることを願う。

◆「英文法序説」の概要◆

- ・この教材は主に「序説」「Original handouts(オリジナルハンドアウト)」と呼称する。
- ・基礎私大(センター)や MARCH、難関国公立に至るまで必要な文法事項を全て総覧した。
- ・文法事項を丸暗記することをできるだけ避け、理屈からの理解ができるように解説した。
- ・その理屈の理解を利用して、英文法問題の解法へと応用する形を示した。

◆教材配布の方針◆

- ・英文法講義各回で適宜配布される。
- ・この教材の配布は飽くまで授業の一環であり、この教材を読むことは授業に参加することと同じである。つまり、配布された教材は次回講義までに「読んであること」が前提である。また、同じ理由で、授業に欠席した生徒、このクラスを受講していない生徒にはその分の教材は配布されない。これは授業を欠席したり、受講していない生徒が、次回にその分の授業をし直されないのと同じである(友人にコピーを行うこと、行ってもらうこと自体は構わない)。
- ・ただし、学校行事や家庭の事情で前もって欠席することが分かっている場合は、予め申告することにより、その次の講以降で配布する。

◆「英文法序説」の構成◆

CHART … その英文法単元の学習の流れを概略図として示したもの。どのように学習を行うか、今自分はどこにいるのかを確認するために活用してほしい。

Compass … その英文法単元の学習の方針を示している。学習は「質」が全てなので、どれだけ一生懸命やっても、その学習が方向違いだと効果は出ない。

STACTICS … 基本的な文法問題を解くための頭の動かし方についてまとめたもの。

理解のための英文法良問「」 … たとえ理想的な授業を受けても、演習問題でその方法を活かせなければ無意味である。「参考書や問題集が授業でやったやり方ではないから、結局従来の(間違った)やり方でやらざるを得ない。」という受験生からの悩みに応えるべく、「理解するための英文法」の問題を作った。これは「入試に実際に出题される形式か」どうかには拘泥せず、「その英文法の仕組みを理解するにはどのような形式が一番理想か」という考えに基づいて作問されており、文法ごとにその様相は異なる。まずここで「英文法を理解して」おけば、後は市販の問題集で演習しても、(解説が異なってもきちんと自分で補えるので)差支えない。

□知識らん … その英文法単元の分野の学習が終わった段階で「覚えている」べき知識らん。どれだけ原理を理解しても、慣用表現などを覚えていなければ威力は半減である。覚えるべきものは覚えるべきなのだから、その単元を理解する時に、一緒に覚えてしまおう。□は全員必須暗記、■は MARCH レベル以上の受験生の必須暗記項目である。

For Study … 英文法の理解を促進する資料集。実際に出题された英文法問題などを掲載しながら、「理解するポイント」「問われるポイント」を強化した。

Examples … 例文。できるだけその英文法のニュアンスが伝わる文を選んだ。MARCH レベルの英作文はこういった基本文をいくつか組み合わせるだけで出来てしまうものも多いので、丸暗記をしろとは言わないが、何度も読んでいくうちに再現できるようになっているのが望ましい。

■研究らん … その英文法単元のハイレベルな知識についてまとめている。初学者～中級者は読み飛ばしてよい。ただし早慶上智・難関国公立を志望する受験生は、他の範囲を読み終わった後に、ここを読みこんでほしい。

Original Handouts

[1] 5文型 sentence pattern

<文型の構成要素>

S(主語) subject 担当：前置詞のつかない名詞

文の主題になるもの。「前置詞のつかない名詞」のみが担当する。文の一番初めに出て来た前置詞のつかない名詞は特別な場合を除いて S になる。

examples

名詞・名詞句が主語になる場合

① He is my father. (前置詞のつかない名詞)

S V C
(彼は私の父です。)

② [To drive cars] is fun. (不定詞の名詞用法)

S V C
(自動車を運転することは楽しい。)

③ [Driving cars] is fun. (動名詞)

S V C
(自動車を運転することは楽しい。)

名詞節が主語になる場合

④ [That earth is round] turned to be true. (名詞節をつくる接続詞)

S V C
(地球が丸いということは正しいとわかった。)

⑤ [Who will be elected president] is a matter. (間接疑問文)

S V C
(誰が大統領を選ぶかと言うことが問題である。)

⑥ [What you have] is a (special) weapon. (関係詞 what)

S V C
(あなたがもっているものは特別な武器なんです。)

名詞が主語にならない場合

<In this library,> you can't speak <loudly>. (前置詞のついた名詞)

前 + 名 S 助 V
(この図書館では、大きな声で話してはいけません。)

V(述語動詞) verb 担当：動詞

文の述語にあたるもの。動詞が必ず担当する。述語は文に1つ以上おけず、また必ず1つ必要なため、1つの英文には必ず動詞が1つあることになる。

① **Rules of grammar;1** 動詞は1文に1つだけ

動詞(V)は文に必ず1つ(0個でも2個以上あったりもしない!)。2個以上あるように見える場合は、どちらかが動詞ではないか、接続詞か関係詞で2つの文が繋がった文だ!

① **Tips for Reading; 1** 動詞の判別①

現在形・過去形・助動詞の後の動詞の原形は必ず文の動詞になる。

① **Tips for Reading; 2** 動詞の判別②

単独の ing 形(現在分詞)・p.p.形(過去分詞)と不定詞は絶対に V ではない。

C(補語) complement 担当：名詞・形容詞(叙述用法)

名詞に説明を加えて、より詳しくする要素。第2文型と第5文型で登場する。名詞か、形容詞が担当する。第2文型ではSの、第5文型ではOの名詞と、名詞=C(名詞がCである)の意味的な関係が成立する(これをネクサスという)。

examples

名詞・名詞句が補語になる場合

- ① He is my father. (前置詞のつかない名詞)

S V C
(彼は私の父です。)

- ② My hobby is [to drive cars]. (不定詞の名詞用法)

S V C
(私の趣味は自動車を運転することです。)

- ③ My hobby is [driving cars]. (動名詞)

S V C
(私の趣味は自動車を運転することです。)

名詞節が補語になる場合

- ④ The trouble is [that he isn't smart]. (名詞節をつくる接続詞)

S V C
(問題は彼が賢くないということです。)

- ⑤ The question is [who is going to tell him]. (間接疑問文)

S V C
(問題は誰が彼に話しに行くかと言うことです。)

- ⑥ That is [what I want]. (関係詞 what)

S V C
(あれは私が求めているものです。)

形容詞・形容詞句が補語になる場合

- ⑦ She is pretty. (形容詞・叙述用法)

S V C
(彼女は可愛い。)

- ⑧ He seems (to be honest). (不定詞の形容詞用法)

S V C
(彼は正直者であるように見える)

- ⑨ A young child lay (sleeping) <in the bed>. (分詞)

S V C 前 + 名
(一人の幼い子供がベッドの中で横になって眠っていた。)

※形容詞節が補語になることはない(形容詞節は必ず限定用法)。

O(目的語) object 担当：名詞

他動詞や前置詞の後ろに置かれる名詞。

examples

名詞・名詞句が目的語になる場合

- ① I ate a hamburger. (前置詞のつかない名詞)

S V O
(私はハンバーガーを食べた。)

- ② He refused [to accept their proposal]. (不定詞の名詞用法)

S V O
(彼は彼らの提案を受け入れること拒否した。)

- ③ You should practice [playing a piano]. (動名詞)

S 助 V O
(あなたはピアノを弾く練習をすべきです。)

名詞節が目的語になる場合

- ④ I think [**That earth is round**]. (名詞節をつくる接続詞)

S V O
(私は地球が丸いと思います。)

- ⑤ I don't know [**Where she comes from**]. (間接疑問文)

S 助 V O
(私は彼女がどこ出身なのかを知らない。)

- ⑥ I want [**What you have**]. (関係詞 what)

S V O
(私はあなたが持っているものが欲しい。)

M(修飾語) modifier 担当：形容詞(限定用法)・副詞・前置詞句

他の語句に情報を付け足し、詳しくする役割をする。形容詞の限定用法と副詞・前置詞句が担当する。補足情報なので、文の要素にはならない(文には必ず必要と言うわけではなく、文構成を把握することを目的とする場合には、消去して考えると理解しやすい)。この講義では、Mとすると、被修飾語との意味的なつながりがあいまいになるため、名詞を修飾するMを形容詞・動詞・形容詞・その他の副詞・文全体を修飾するMを副詞と細かく区別する(Mは用いない)。前置詞句も必ず形容詞・副詞いずれかのはたらしきをする。どちらであるかをしっかりと確認すること。

examples

形容詞・形容詞句が修飾語になる場合(名詞を修飾)

- ① She is a (**pretty**) girl. (形容詞・限定用法)

S V C
(彼女は可愛い少女だ。)

- ② I have no friend (**to help**). (不定詞の形容詞用法・限定用法)

S V O
(私は助けるための友達がいない。)

- ③ This (**barking**) dog is noisy. (分詞・限定用法)

S V C
(この吠えている犬はうるさい。)

形容詞節が修飾語になる場合(名詞[先行詞]を修飾)。

- ④ The girl (**who stands over there**) is my sister. (関係代名詞)

S S' V' 副詞 V C
(あそこに立っている女性は私の妹です。)

- ⑤ The house (**where I lived**) was cute. (関係副詞)

S 副詞 S' V' V C
(私が住んでいたその家は可愛らしかった。)

① Rules of grammar; 2 限定用法の形容詞の置かれる位置

形容詞の制限用法(名詞を修飾する用法)は、形容詞が1語の場合は名詞の前に置かれ、2語以上(句節)の場合は名詞のすぐ後ろに置く。

副詞・副詞句が修飾語になる場合

- ⑥ He is <**very**> tall. (副詞)

S V C
(彼は非常に背が高い。)

- ⑦ He studied <**hard**> <**to pass the exam**>. (不定詞の副詞用法)

S V V
(彼は試験を突破するために一生懸命勉強した。)

- ⑧ <**Seeing the dog**> he ran <**away**>. (分詞構文)

→文全体 S
(犬を見て、彼は逃げ出した。)

副詞節が修飾語になる場合

- ⑨<When I was a sixteen,> I studied <abroad>. (副詞節をつくる接続詞)
- S V C →文全体 S V
- (16歳の時、私は留学した。)

① Rules of grammar; 3 副詞の用法

副詞は動詞・形容詞・その他の副詞・文全体のいずれかを修飾する。文の要素になることはなく、なくても文自体の意味は通じる。

前置詞+名詞が修飾語になる場合

- ⑩The study (of rules) (of grammar) is difficult, but interesting.
- S 前+名 前+名 V C C
- (文法の規則の勉強は難しいが、面白い。)
- (前置詞+名詞=形容詞句)

- ⑪I will go <after you.> (前置詞+名詞=副詞句)
- S 助 V 前+名
- (私はあなたの後に行こう。)

① Rules of grammar; 4 前置詞のルール

前置詞は必ず後ろに名詞（前置詞の目的語）を伴う。（名詞の前に置く品詞）。逆に言えば前置詞は後ろに名詞しかとらないので節を作れない（必ず句をつくる）。

① Rules of grammar; 5 前置詞句の性質

前置詞+名詞のカタマリ（前置詞句）には形容詞句と副詞句がある。

① Rules of grammar; 6 副詞の前に前置詞はいらない

副詞の前に前置詞はいらない。（例）(○)I go to school. (○)I go there. (×) I go to there.

SV(第 1 文型)

主語と自動詞だけで文が完結する文型。第 1 文型をとる動詞は 1 語でも完全に文を完了させることができる。ただ、主語と動詞 2 語では、あまりに文がそっけなく、また内容も薄いので、たいていの場合は後ろに「場所」「時」「様態(様子)」を表す副詞要素がつく。そのため、**SVM** と表記されることもある。

examples

① I go <to school.>

S V 前 + 名
(私は学校に通う。)

② We are <in love.>

S V 前 + 名
(私たちは愛し合っている。)

③ She sings <very well.>

S V
(彼女は非常に上手に歌う)

④ We got <to Tokyo.>

S V 前 + 名

⑤ I made <toward you.>

S V 前 + 名

①私が学校まで「移動」することを示している。

②Cをとらない be 動詞は「存在する,ある」という意味になる。今回は後ろは副詞句なので第 1 文型だとわかり、「私たちは愛の中にいる＝愛し合っている」という意味になる。これは「存在する」という原義である。

①Rules of grammar;7

Cをとらない be 動詞は「存在する,ある」という意味になる。

③「歌う」「泣く」等の行為は「声が出現する」ということである。(4)と(5)はためしに意味を取って考えてみよう。

④get と言うと、「～を手に入れる」という意味ばかりを覚えてしまいがちだが、これはもちろん「東京を手に入れる」という意味ではない。そこで「動いた」「出てきた」「存在した」等の意味を当てはめていくと、「東京へ動いた＝到着した」という意味がぴったりである。訳は「私たちは東京に到着した。」。

⑤この第 1 文型をとる make はなかなか見かけないが、これも先ほどの 3 つを当てはめようとする「あなたの方へ移動した」の意味がぴったり。「私はあなたの方へ向かった。」。このように文型さえわかれば、動詞の意味が分からなくても大体の訳を作ることができる。

SVC (第2文型)

主語と自動詞に補語がついて文が完結する文型。第2文型をとる動詞は1語では完全に文を完了させることができず、補語の助けを借りる必要があるため、**不完全自動詞**という。第2文型をとる動詞は原義として「状態」「変化の結果」「外観」を示す。また、いずれの形もSをCが説明するので、**S=C**の形が成立する。

① Rules of grammar; 8 第2文型の原義

第2文型はどの動詞も基本「状態」「変化の結果」「外観」の意味を示す。また **S=C** の関係が成り立つ。

examples

① She is pretty.

S V C
(彼女は可愛い。)

② Fish goes bad <quickly>.

S V C
(魚は急速に腐る。)

③ He appears to be rich.

S V C
(彼はお金持ちに見える)

①pretty は she の「状態」を示す。

②bad は fish の「変化の結果」を示す。

③rich は he の「外観」を示している。いずれも S=C が成り立っていることがわかるだろう。

第2文型をとる主な動詞

「状態」を示す動詞

be 「Cである」

hold 「Cのままでいる」

keep 「Cのままでいる」

lie 「Cである」

remain 「Cのままでいる」

stay 「Cのままでいる」

「変化の結果」を示す動詞 (全て「Cになる」の意味を表す)

become / come (良い状態になる) get (良くない状態になる)

go (良くない状態になる)

grow (次第にある状態になる) fall (急に状態になる)

turn (一気に違う状態になる)

prove (to be) (～であるとわかる) turn out (to be) (～であるとわかる)

「外観」を示す動詞

look (Cに見える)

seem (Cのように思える)

appear (外観がCのように思える)

sound (～のように聞こえる)

feel (～のように感じる)

smell (～のように匂う)

taste (～のような味がする)

SVO (第3文型)

主語と他動詞に目的語がついて文が完結する文型。第3文型をとる動詞は目的語1語をとれば完全に文を完了させることができるので、**完全他動詞**という。原義として「Oに影響を与える」内容になることが多い。SとOは全く別のものであるため、**S≠O**の形になる。

examples

① I play tennis.

S V O
(私はテニスをします。)

② We thought [that he was a teacher].

S V O S' V' C'
(我々は彼が先生であると思う。)

③ She said [that he is a student].

S V O S' V' C'
(彼女は彼は生徒だといった。)

① tennis は play の目的をさしている。

②と③だが、目的語に that 節をとっている。that 節を目的語に取る動詞は、「O の内容を考える」「O の内容を言う」系であることをおさえておくといい。

① **Rules of grammar; 9** S V that を取る動詞

S V [that ~] の形を取る動詞の原義は「O の内容を考える」「O の内容を言う」系だ。
O

SVO₁O₂ (第4文型)

主語と他動詞に目的語がついて文が完結する文型。第4文型をとる動詞は目的語2語をとれば完全に文を完了させることができるので、こちらも**完全他動詞**という。2つの目的語のうち、1つ目のO (O₁・IO) を**間接目的語**(人であることが多い)、2つめのO (O₂・DO) を**直接目的語**(ものであることが多い) 第3文型の文から派生した新しい文型で、全体的に数は少なく、原義として「O₁にO₂を与える(奪う)」内容になる(第4文型を取る動詞を授与動詞という)。また、元は第3文型であったため、ほとんどすべての文を第3文型に書き換えることができる。

① **Rules of grammar; 10** 第4文型の原義

第4文型はどの動詞も基本「O₁にO₂を与える(奪う)」。第3文型から派生したものなので、第3文型に書き換えることができる。

examples

① She gave me a pretty watch.

S V O1 O2
(彼女は私にかわいい腕時計をくれた。)

② It will cost you \$600.

S 助 V O1 O2
(飛行機で日本に行くには600ドルかかる。)

③ The king gave a lion his son.

S V O1 O2

④ She found me the job.

S V O1 O2

①は「与える」系の動詞。

②は「奪う」系の動詞。奪う系の動詞は数が少なく、受験レベルでは以下のものをおさえておこう。

第4文型で「奪う」系の動詞

take (かかる) cost(犠牲にさせる) save(省く) spare(与えない) owe(借りている) deny (与えない)

続いて第4文型の性質をふまえて③④を読んでみよう。

③はなんの変哲もない文のようにみえるが、ここで「その王様は彼の息子にライオンを与えた。」と訳しているのならば、英語を意味から読もうとしている証拠。英文法(英語構文)は形がほぼ全てである。O₁にO₂を与えるのだから、正しくは「その王様はライオンに息子を与えた。」というのが正しい。

④は find が第4文型をとる珍しい例。だが、「与える(奪う)」が原義の第4文型なので、「彼女は私に仕事を見つけてあげた」という訳であることは容易に想像がつく。「私のために仕事を見つけて、その仕事を『与えた』」のである。

第4文型の第3文型への書き換え

SVO₁O₂ → SVO₂ 前 O₁

ほとんどの第4文型は第3文型に書き換えることができると書いたが、書き換え方は数パターンある。その具体的な方法を示していこう。

(1) give 型の動詞 (相手が必要な動作) → 前に to を入れるグループ

to は着点を示す前置詞である(例えば go to Tokyo と言えば、『東京』に行く)と着点が強調されるイメージ)。そのため、to を入れる動詞は「相手が必要な動作」である。それらの動詞を give 型という。

She gave me a pretty watch. → She gave a pretty watch <to me>.
S V O₁ O₂ S V O

「与える」という動作は相手がいないとできない。そこで to を入れる。

give 型の動詞 (相手がいないとできない、「与える・奪う」系の動作であることを理解しよう)

allow(与える) bring(持ってくる) deny(与えない) do(与える) feed(餌をやる) hand(手渡す)
lend(貸す・与える) mail(郵送する) offer(申し出る) owe(借りている) pass(手渡す) pay(払う)
post(郵送する) promise(約束する) read(読んであげる) refuse(断る) sell(売る) send(送る)
show(見せる) teach(教える) tell(言う) write(書く)

(2) buy 型の動詞 (相手が必ずしも必要でない動作) → 前に for を入れるグループ

for は方向を漠然示す前置詞である(例えば go for Tokyo と言えば、「東京方面に『行く』」というイメージ。東京までの間にいろいろなところに立ち寄る感じがする。ちなみに JR 東日本の行き先幕も「FOR TOKYO」と書いてある。東京に向かう途中にいろいろなところに停車するイメージだからだ。)。そのため、for を入れる動詞は「相手が必ずしも必要でない動作」である。それらの動詞を buy 型という。



She bought me a pretty watch. → She bought a pretty watch <for me>.
S V O₁ O₂ S V O

「買う」という動作自体は相手がいなくてもできる。そこで for を入れる。

buy 型の動詞 (相手がいなくてもできる、「与える・奪う」系の動作であることを理解しよう)

sing(歌う) make(作る) do(する) order(指示する) find(見つける) get(手に入れる)
cook(料理する) choose(選ぶ) pick(つむ) play(演奏する) reach(取る) leave(残す)

(3)特殊型の動詞 → ④に of ・ on を入れるグループ(覚えてしまえ！)

④に of を入れるグループ

ask (尋ねる・頼む) inquire (尋ねる) enquire (尋ねる)

④に on を入れるグループ

trick (いたづらをする)

(4)書き換え不可の動詞 (覚える)

send (送る) save(省く) spare(与えない) cost(犠牲にさせる) envy (うらやむ)

examples

① She gave me a pretty watch. → She gave a pretty watch <to me>.
S V O₁ O₂ S V O
(彼女は私にかわいい腕時計をくれた。)

② She bought me a pretty watch. → She bought a pretty watch <for me>.
S V O₁ O₂ S V O
(彼女は私にかわいい時計を買ってくれた。)

③ The man ask me the question. → The man ask the question <of me>.
S V O₁ O₂ S V O
(その男は私に質問をした。) ※第3文型で使うのはまれ。

④ He played me a trick. → He played a trick <on me>.
S V O₁ O₂ S V O
(彼は私にいたづらをした。)

For study

第4文型が出現した意義

第4文型は第3文型から派生したと書いたが、なぜ生まれたのか。実は英語には、情報構造というものがあり、英語は文末に近づけば近づくほど重要な情報が置かれるというものがある。第3文型では、SV 者 to(for/of/on) 人となり、一番重要なものはいずれの形でも「人」ということになる。つまり、『人』にSは物をVした」という構文になるわけである。ところが、場合によっては、「人にSは『物を』Vした」としたいこともある。つまり与えた(奪った)物に力点を置きたい場合もあるのである。その場合は文末に物を持てきたいことになるが、第3文型ではそれが不可能である。そのため、文末に物を持ってくる文型を作る必要性があり、その結果、第4文型が生まれたのである。この知識は特に受動態を学習する上で有益である。

SVOC(第5文型)

主語と他動詞に目的語がついて文が完結する文型。OとCには「OがCである」という主従関係(ネクサス)があり、原義は「『OがC』という状況をSがVする」内容になる。

①Rules of grammar; 11 第5文型の原義

第5文型の原義は基本的に「『OがC』という状況をSはVする」。

examples

① We elected him president.

S V O C
(私たちは彼を大統領に選出した。)

② They wanted him to sing.

S V O C
(彼らは彼が歌うのを望んだ。)

③ I made him clean the room.

S V O C
(私は彼に部屋を掃除させた。)

④ I heard the bell ring.

S V O C
(私はベルが鳴ったのを聞いた。)

⑤ We all regarded the situation as serious <yesterday>.

S=同格 V O C明示 C 副詞的目的格
(我々全員は昨日その状況を深刻なものとして見なした。)

①の原義は「大統領が選ばれるという状況を、私たちは選んだ。」、

②は同様に「彼が歌うという状況を彼らはのぞんだ。」となる。Cには名詞要素と形容詞要素の両方がなるので、1語の名詞・形容詞以外にも名詞句や名詞節、形容詞句や不定詞、分詞がくることもある。今回は不定詞名詞用法。

③の make と ④hear はそれぞれ「使役動詞」「知覚動詞」というものである。これについては解説が必要だろう。

副詞的目的格

名詞は基本的にSOCになる。しかし、名詞にはもう2つ別のはたらきがある。そのうちの1つが「副詞的目的格」だ。名前は難しいが、役割は簡単で「副詞の扱いしてよい名詞」のこと。もともとは「前置詞+名詞」で副詞のはたらきをしていたが、前置詞が無くなり、名詞の目的格だけで副詞のはたらきをしているので「副詞的目的格」と呼ばれるようになった。

I was running near the river **yesterday**.

このような「時」を表す名詞は副詞扱いしていいと習ったはずだ。これもこの副詞的目的格のはたらきをしている名詞なのである。他にもこんな英文を見たことがあるはずだ。

Bob is **twenty years** old.

This tower is **three hundred thirty three meters** high.

これらの表現の太字の部分の構文的是たらきがわかるだろうか。どちらもisがVでoldとhighという形容詞がCになっている簡単な第2文型の構文だ。この間に入っている名詞はどちらも副詞としてoldやhighを修飾している。これも「数値」を表す副詞的目的格なのである。ちなみに名詞のもう1つの別のはたらきは「同格」だが、これはまた改めて解説する。

使役動詞と知覚動詞

“make” “have” “let”の3語が5文型を取ってCに不定詞を取った場合、その不定詞はtoをとった原型不定詞の形にしなければならない。意味は「OにCさせる」という意味になり、この場合この3語は“使役動詞”となる(例えば第3文型をとる make は「～を作る」という意味で、使役動詞ではない。Cに不定詞以外を取った場合も使役動詞とは言わない)。例文で検討しよう。

- (○) I made him **clean** the room.
(×) I made him to clean the room.

上の文は一見 made と clean の2語動詞があるように見える。動詞は文に2語あることはない。しかしこの文は誤文ではない。**① Rule of grammar; 1**にあるように、「どちらかが動詞ではない」のである。この場合、後ろの clean は不定詞で、to clean の to がとれた形なのである。使役動詞はCに原形不定詞(toのない不定詞)をとる。このことを覚えておこう。逆に下の文は一見正文のようだが、to がとれていないので誤文である。ちなみに使役動詞の意味はどれも「～させる」という意味だが、厳密には make>have>let の順に強く、make は「(強制的に)～させる」、have は「(頼んで)～してもらう」、let は「～させてあげる」という風に違う。

同じように第5文型でCの位置に原形不定詞を取るものに“知覚動詞”がある(例文は(4))。知覚動詞というのは、人が5感で感じる意味を示す動詞のことである。

知覚動詞 (一例)

feel see watch stare gaze glimpse glance hear smell taste observe

- (○) I heard the bell **ring**.

これも動詞が二つ(hear と ring)あるように見えるように見えるが、やはり後ろが不定詞である。

さて、使役動詞・知覚動詞はCの位置に原型不定詞を学んだところであるが、注意する用法がもう1つある。それは受動態(受動態の項でも解説)にした場合は原形不定詞を通常の不定詞に戻さなければならない。よって次の文は正文である。原形不定詞にした場合は逆に誤文になってしまうので注意しよう。

- (○) He was made **to clean** the room by me.
(彼は私によって掃除をさせられた。)
(○) the bell was heard **to ring** by me.
(そのベルは私によって鳴ったのを聞かれた。)

① Rules of grammar; 12 使役動詞と知覚動詞

使役動詞と知覚動詞は第5文型のCの位置に不定詞がくる場合は原型不定詞を取る。ただし、受動態にする場合はto不定詞をとる。使役動詞は5文型をとった make/ have/ let の3語。知覚動詞は。使役動詞・知覚動詞のいずれもCに必ず不定詞が来るというわけではなく(来た場合は原形不定詞をとるというだけ)、他の場合はそのままよい(例えばCにing形を取った場合は原形にせず、ing形のままそのまま置いておけばいい。)

Original Handouts

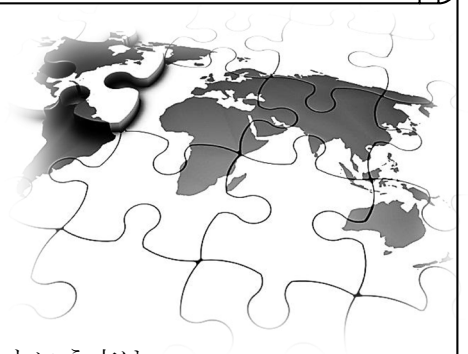
[2] 受動態 passive voice

CHART ～攻略への海図～

- 基本の受動態の作り方(=第3文型)をおさえる。
- 応用形として第4・5文型の受動態が作れる。
- 群動詞を覚える。
- 受動態で by 以外を用いる動詞を覚える。

受動態ってなに？

目的語の視点からの文。受け身の文とも言う。例えば「私は本を読む。」という文は、私の視点から書かれているが、目的語である本の視点から受動態で言うと「本は私に読まれる。」となる。もちろん目的語のある文でしか作ることができない。

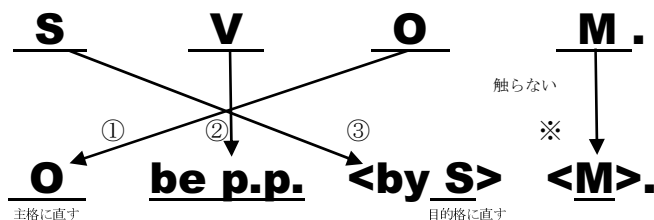


For study

受動態の作り方

<材料> 目的語(第3文型・第4文型・第5文型で可能。) 主語 動詞

- ① 目的語を主語の位置に移動する。(代名詞の場合はもちろん主格に変える！)
- ② 受動態の印として動詞をVから“be + p.p.”の形に変える。
※鉄則 その他の要素は余計な手を加えず、そのままの位置に置いておくこと！
- ③ 主語を by の前置詞句にして後ろへ移動する。
⇒重要でない・不明・漠然としている場合は書かなくてもよい。



～学習の指針～

受動態ができるようになるには、「書く」勉強が一番。まずは受動態を作って、また能動態(受動態じゃない普通の文)に戻す練習をひたすらする。その後、4択問題で仕上げるという練習で、作り方を頭ではなく体にすりこむ。その後、作り方に少し注意が必要な第4文型・第5文型・群動詞の受動態の作り方を基本形の作り方にプラスすればよい。

受動態の基本—第3文型の受動態

受動態の基本。まずは、左の作り方を参考にやってみよう。

For study

問1 次の文を受動態にせよ。

- (1) I love you.
- (2) We can see stars at night.
- (3) They are new building a house.

①Rules of grammar; 13 受動態にした後の文型

受動態は目的語を材料にして1つ消費するため、受動態の後の文型は、元の文型から目的語を1つ消費した文型になる。ただし、受動態の文型は重要ではない。

①Rules of grammar; 14 複雑な形の動詞を受動態にする場合

動詞が複雑な形をしている以下のような場合、その形に be + p.p. を組み合わせる。具体的には、太字になっているところに be 動詞を入れて、その後ろに過去分詞を置いた形。

助動詞(助動詞 + V 原)	⇒ 助動詞 be + p.p.
進行形(be + V ing)	⇒ be + being + p.p.
完了形(have + Vp.p.)	⇒ have + been + p.p.

①Tips for Reading; 3 英文の力点は文末にある

英文は文末に一番大事な情報が来る(力点がある)。

第4文型の受動態

第4文型は目的語が2つある。その扱い方に注意しよう。受動態で一番大事な知識だ。

For study

問2 次の文を受動態にせよ。

- (4) He teaches us English.
- (5) My mother cooked me French fries.

第4文型の復習 (☞[α-1 & 2]参照)

- ①第4文型はモノに力点を置きたくて、第3文型を変形して作られた例外的な文型。
- ②第4文型は基本的に元の第3文型の形に戻すことができる。
- ③元の形の第3文型は動作が必ず相手がいないと成立しない場合(give 型)は to, 相手がいなくても動作自体は行える場合(buy 型)は、for をつける。

I gave him a lovely watch. ⇒ I gave a lovely watch to him.

give は相手がいないとできない動作。なので相手の前には to(到着点)をつける。

I sing him a lovely song. ⇒ I sing a lovely song for him.

sing すること自体は相手がいなくてもできる。ので、相手の前には for(方向)でよい。

①Rules of grammar; 15 第4文型の受動態

- ①目的語が2つある第4文型は受動態も2パターンできることになる。ヒトの方の目的語を主語にした場合、モノの方の目的語は触らずに元の動詞の後ろの位置に置いておく。
- ②ただし、モノの方の目的語を主語にしてしまうと、力点がモノでなくなってしまうので、第4文型は使えない。そこで、第3文型に戻して、それを受動態にしなければいけない。
- ③さらに buy 型の第4文型(for を入れるやつ)は、ヒトを主語にした受動態はできないので、モノを主語にして、第3文型に戻したこの受動態しか作ることができない。

第5文型の受動態

第5文型は目的語は1つなので、主語にできるものは決まっている。では補語はどこに置くかというところ。

For study

問3 次の文を受動態にせよ。

- (6) We called him Tom.
- (7) The noise kept him awake. (awake 形 起きている)
- (8) I saw him enter the room.

①Rules of grammar; 16 第5文型の受動態

第5文型の受動態は目的語を前に出して、補語は動詞の後ろに触らずそのまま置いておく。

①Rules of grammar; 12 使役動詞と知覚動詞

使役動詞と知覚動詞は第5文型のCの位置に不定詞がくる場合は原型不定詞(toをとった不定詞)にする。ただし、受動態にする場合は to 不定詞に戻す。

群動詞を用いた受動態

For study

問4 次の文を受動態にせよ。

- (9) She looked after him. (look after ~ ~の面倒を見る)
- (10) A foreigner spoke to me yesterday.

群動詞の考え方

Everybody laughed < at him >. (文法的な発想=第1文型)

S V 前 + 名

Everybody laughed at him. (ネイティブの発想=第 文型)

S

群動詞 頻出 10 個

これらの動詞は、全部で1語の他動詞として扱うようにしよう。

<input type="checkbox"/> speak to ~	「～に話しかける」	<input type="checkbox"/> put up with ~	「～に耐える」
<input type="checkbox"/> speak ill of ~	「～の悪口を言う」	<input type="checkbox"/> take care of ~	「～の面倒を見る」
<input type="checkbox"/> speak well of ~	「～を褒める」	<input type="checkbox"/> look after ~	「～の面倒を見る」
<input type="checkbox"/> look up to ~	「～を尊敬する」	<input type="checkbox"/> pay attention to ~	「～に注意を払う」
<input type="checkbox"/> look down on[upon] ~	「～を見下す」	<input type="checkbox"/> laugh at ~	「～を笑う」

①Rules of grammar; 17 群動詞

「動詞+前置詞」や「動詞+名詞+前置詞」で一つの動詞として扱う動詞を群動詞という。数は少ないので、見覚えがある程度に覚えておけば、文法問題に十分対応できる。

元の主語を by 以外を使って表す受動態

For study

問5 次の文を受動態にせよ。

(11) Snow covered the mountain.

①Rules of grammar; 18 by 以外を使う受動態

受動態の中には元の主語を by ではない前置詞で表すものもある。

by 以外を使う受動態

一般的な熟語帳にも載っている。

<input type="checkbox"/> be known to～	「～に知られている」	<input type="checkbox"/> be surprised at～	「～に驚く」
<input type="checkbox"/> be known for～	「～で知られている」	<input type="checkbox"/> be amazed at～	「～に驚く」
<input type="checkbox"/> be known by～	「～によってわかる」	<input type="checkbox"/> be married to～	「～と結婚している」
<input type="checkbox"/> be known as～	「～として知られてる」	<input type="checkbox"/> be caught in～	「(雨・嵐)にあう」
<input type="checkbox"/> be made from～	「～から作られる」	<input type="checkbox"/> be filled with～	「～で一杯である」
<input type="checkbox"/> be made of～	「～から作られる」		
<input type="checkbox"/> be covered with～	「～で覆われている」		
<input type="checkbox"/> be interested in～	「～に興味がある」		
<input type="checkbox"/> be engaged in～	「～に従事している」		
<input type="checkbox"/> be involved in～	「～に関係がある」		
<input type="checkbox"/> be pleased with～	「～に喜ぶ」		
<input type="checkbox"/> be satisfied with～	「～に満足している」		

For study

問6 次の文を能動態にせよ。

(12) Tokyo was known to every American.

(13) Tokyo was known for Tokyo tower.

疑問文の受動態

疑問文の受動態の作り方

- | | |
|----------------|---|
| ①疑問文を肯定文に戻す。 | ⇒ |
| ②肯定文を受動態にする。 | ⇒ |
| ③その受動態を疑問文にする。 | ⇒ |

For study

問7 次の文を能動態にしよう！

(14) Who will look after the children?

間接受動態

問8 次の文を英語で書きなさい。

(15) 「私はカバンを盗まれた。」

(16) 「私は髪を切ってもらった。」

上の英文を書く場合、以下のように書いたら不正解である。

(×) I was stolen my bag.

(×) I was cut my hair.

この英文が不正解な理由は「steal も cut も第3文型を取る動詞であり、受動態にした場合に後ろに目的語が残っている形は不可能である」からだ。これを強引に訳そうとすると「私はこっそり盗まれた。カバン。」「私は切られた。髪。」という文とは言えないものになる。そもそも「盗まれた」のも「切られた」のも「私」ではないので、このような英作文は許されない。この場合は have を使った第5文型で以下のように書く必要がある。

(○) I had my bag stolen.

(○) I had my hair cut.

「私」は「盗まれた」わけでも「切られた」わけでもない。『カバンが盗まれた』(という状況を)持った。」のであり、『私の髪の毛が切られた』(という状況を)持った。」のである。もちろん主語を変えて「私のカバンが盗まれた。」「私の髪は切られた。」としても正解になる。

解答

(15) I had my bag stolen.

My bag was stolen.

(16) I had my hair cut.

My hair was cut.

理解のための英文法良問

【受動態】

次の英文を受動態に直し、その文をまた元の能動態に戻しなさい。

(1) We can see stars at night.
S V O

(2) Tom gave him a book.
S V O₁ O₂

(3) Tom sings me a song.
S V O₁ O₂

(4) He makes me angry.
S V O C

(5) He makes me study English.
S V O C

(6) His friends looked up to Tom.

(7) Tom laughed at me.

(8) An American spoke to me at the station yesterday.

(9) Snow will cover Mt. Fuji.

(10) Who will look after the children?



(1) Stars can be seen ~~by us~~ at night.

第3文型の受動態。元々は are seen だが、助動詞 can がついているので、次の動詞 are は原形になり、can be seen にする。星を見るのは我々地球の生物なのはわざわざ言わなくてもわかるので省略する方が自然。

(2) He was given a book by Tom.

A book was given to him by Tom.

第4文型の受動態。目的語が2つあるので、答えも2本になる。まず、he(人)を主語にした受動態を作る場合は、a book には触らずにそのまま元の位置に置いておくこと。a book を主語にして受動態を作る場合はモノが力点にならないので、一旦元の第3文型に戻さなければならない。give の動作は相手が必ず必要なので、Tom gave a book to him. の形になる(=相手の前に to を入れる)。

(3) (×) I am sung a song by Tom. (私は歌われる?? → 歌うのは歌!)

A song is sung for me by Tom.

第4文型の受動態。目的語が2つあるので、答えも2本になる。sing という動作は相手がいなくても成立する(一人でも歌える)ので、第3文型に戻すと、Tom sings a song for me. となる(=相手の前に for を入れる)。(2)と同じくモノを主語にするなら、これを受動態にする。ただし、この for を補うタイプの動詞([a-1&2]参照)は、ヒトを主語にした受動態は不可能。よって答えは1個しかない。

(4) I was made angry by him.

第5文型の受動態。第5文型では、SVOCのC(補語)は関係ないのでそのままの位置に置いておく。

(5) I was made to study English.

この文は、動詞が make で、第5文型を作り、SVOCのCのところに不定詞をとっているのが、使役動詞である。なので to study の to が消えている。だが、受動態にする場合は、to を戻す。to study English という不定詞のカタマリは補語なので、そのままの位置に置いておく。ちなみに(4)は同じ動詞 make で第5文型を作っているが、補語が不定詞ではないので使役動詞ではない。ちなみに使役動詞で受動態にするのはこの make のみ。使役動詞 let や have の受動態はない。

(6) Tom was looked up to by his friends.

look up to はこの3語で一つ他動詞として扱う群動詞。to by となるのは変な気がしてもこれが正解。

(7) I am laughed at by Tom.

laugh at はこの2語で一つ他動詞として扱う群動詞。at by となるのは変な気がしてもこれが正解。

(8) I was spoken to by an American at the station yesterday.

speak to はこの2語で一つ他動詞として扱う群動詞。to by となるのは変な気がしてもこれが正解。

(9) Mt. Fuji will be covered with snow.

cover は、受動態にした時に、by の代わりに with を使う表現。

(10) Who will be the children looked after by?

Whom will be the children looked after by?

By whom will be the children looked after?

The children will be looked after by A. という能動態に戻してから疑問文へ。

次の文の()を埋めるのに正しい前置詞を入れよ。ただし by は用いない。

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. be known ()～ | 「～で知られている」 |
| 2. be married ()～ | 「～と結婚している」 |
| 3. be caught ()～ | 「(雨・嵐)にあう」 |
| 4. be filled ()～ | 「～で一杯である」 |
| 5. be covered ()～ | 「～で覆われている」 |
| 6. be interested ()～ | 「～に興味がある」 |
| 7. be engaged ()～ | 「～に従事している」 |
| 8. be involved ()～ | 「～に関係がある」 |
| 9. be pleased ()～ | 「～に喜ぶ」 |
| 10. be satisfied ()～ | 「～に満足している」 |
| 11. be surprised ()～ | 「～に驚く」 |

次の文の()に入るものとして最も適切なものを、以下の選択肢から選べ。

- (1) When I went abroad, my wallet ().
①steal ②steals ③stole ④was stolen
- (2) I was not asked ().
①any questions ②of any questions ③by any questions ④to any questions
- (3) I think everything () by the end of next month.
①did ②was done ③will be done ④will do
- (4) I have to find a policeman as soon as possible because my bag ().
①has been stealing ② has been stolen ③was being stolen ④has stolen
- (5) He was () everybody.
①laughed at ② laughed at by ③laughed by ④laughed
- (6) The burglar was seen () into the house.
①break ②broke ③broken ④to break
- (7) She was seen () into the theater with boyfriend.
①go ② going ③gone ④went
- (8) He is satisfied () the results of his experiment.
①of ② by ③ from ④ with



1. for 2.to 3.in 4.with 5.with 6.in 7.in 8.in 9.with 10.with 11.at

(1)④

受動態の問題の基本は「そのまま訳すと変だ→あつ受動態か!」という発想。今回はまさしくその良パターン。my wallet は「私の財布」、steal は「～をコッソリ盗む」。ということは、そのままだと「財布が盗む」ことになってしまふ。意味がすでにおかしいが、後ろに「その財布が盗んだもの」を書かなければ意味不明であることからわかるとおり、steal は他動詞なので、後ろに目的語が必要なので、構文的にもおかしい。そうか!「財布は盗まれる」だ!と発想を転換して、答えは④。①～③は受動態にならないので×。①は能動態だとしても3単現のsがないので×。第3文型の受動態は目的語を1つ消費するので、動詞の後ろに目的語は残らない。

(2)①

ask は第4文型をとる動詞であった。なので、今回は第4文型の受動態である。第4文型の受動態で、ヒトを主語にするパターンは、モノは相変わらず文末にいるため、第4文型をそのまま受動態にすればいいので、動詞の後ろにそのまま名詞を置いておく。つまり答えは①。

(3)③

この文は I think [(that) everything ()～] という that 節の中の文の問題(接続詞 that は省略されている)。everything が主語の文で、①や④を入れると「全てのものが～をする」ということになり、やっぱり do の目的語がないので×。受動態にする。また、by the end of next month (来月の終わりまでに)というキーワードから、これは未来形の受動態にしなければならない。②だと過去の受動態になるので×。

(4)②

steal は他動詞なので、能動態だと後ろに名詞が必要。しかし今回の文だと後ろには何もないので、①④はダメ。受動態だと判断して②か③。③だと「今この瞬間盗まれ続けている」となるので不適。②が正解。

(5)②

これはもう大丈夫だろう。laugh at は群動詞なので、受動態にすると laughed at by になる。

(6)④

see の第5文型の受動態。see は第5文型をとり、Cの位置に不定詞が入れば知覚動詞になり、to 不定詞の to をとった原形不定詞にしなければならない。ただし、受動態では to を戻すので注意。答えは④。

(7)②

これも(6)と同じような問題だが、to go がない。そこで困って大抵の人は「じゃあ原形不定詞 go にしておくか～」とやってしまうが、それは絶対ダメ。使役動詞・知覚動詞は受動態にしたら原形不定詞に to を戻すのは絶対のルール。ではどうするか、使役動詞・知覚動詞じゃなくすればいいのである。つまりCの位置にそもそも不定詞じゃないものを入れればいい。答えは分詞を入れて②going。これで同じ意味になる。本当によく出るひっかけ問題なので、注意すること。

(8)④

satisfy は受動態にすると by ではなく with を用いる。

CHART ～攻略への海図～

- 点の時制・間の時制の概念を理解する。
- 各時制の特徴を理解する。
- 状態動詞を覚える。
- 時や条件を表す副詞節のルールを理解する
- 時制の慣用表現を覚える。

時制ってなに？

「時間」のこと。現在形・過去形・未来形・進行形・完了形・完了進行形をひとまとめにそう呼ぶ。日本語は現在・過去・未来の3つで時間を表すのに対し、英語は12の時制があるので、日本語の「訳」で対応することは不可能。英語の時制を攻略するには、ネイティブの発想に合わせることに。



For study

時制のイメージ

時制 (12 時制)	{	点の時制	———	(現在・過去・未来) 形	(3 時制)
		(6 時制)		(現在・過去・未来) 進行形	(3 時制)
	{	間の時制	———	(現在・過去・未来) 完了形	(3 時制)
		(6 時制)		(現在・過去・未来) 完了進行形	(3 時制)

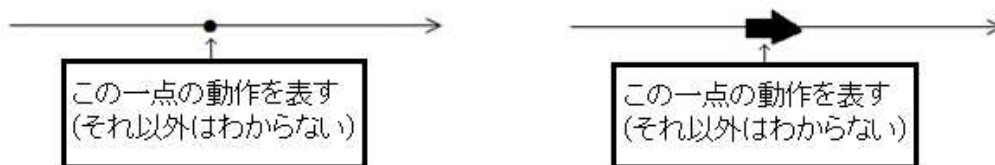
Compass ～学習の指針～

時制は、まず、ネイティブの時制の感覚を身に着けることから始める。あとは、ひたすら4択問題を解いていくことで、結果が出る。時制の文法問題は、出題の都合上、キーワードを仕込まないと問題が成り立たないパターンが非常に多く、逆にそのキーワードに重点を置いた解法を身に着けると、一気に上達が期待できる。

点の時制 (1) — 基本形 (現在形・過去形・未来形)

現在形・過去形・未来時制

(現在・過去・未来) 進行形



点の時制のスタイル＝その「点」の出来事の事実を述べているだけ。それまでがどうだったかとか、その後がどうなったかは不明！

点の時制のキーワード

年・月・日・季節・曜日を表す語句 (例) 2015, yesterday, in summer, on Monday
時代を表す語句(昭和時代・少年時代 etc) (例) in my childhood
When～? の疑問文 when の接続詞 -ago など

現在（現在形[V]）

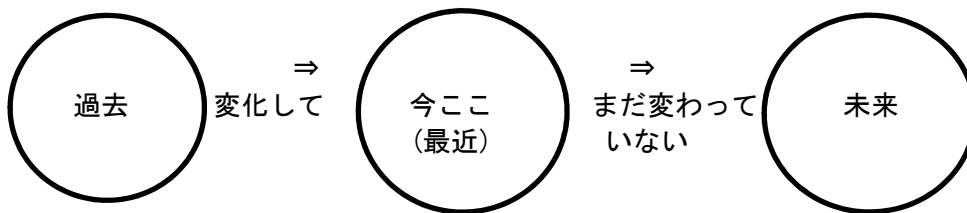
■現在形の「現在」≠

現在形の「現在」＝

さい-きん【最近】

① 現在より少し前のある時。また、少し前から現在までの間。 [大辞泉より引用]

- ① 最近はココアにはまっています。
- ② 最近の高校生はだらしない。
- ③ 最近、人は化石燃料を使って産業をしているので大気汚染も多い。
- ④ 最近は人間が地球を支配しているから環境は悪くなっている。



「最近」の概念は時間の長さとは無関係！前の状態から変わってから、次の状態に変わるまでの「いま」を「最近」という＝ 現在形！

① Rules of grammar; 19 現在形は「最近形」

現在形は「今この瞬間」を指すのではなく、「最近の状態」を表す点の時制。

(1) 現在の習慣

I play tennis.

I am a student.

① Rules of grammar; 20 現在形のキーワード

現在形の現在の習慣を表す用法は「頻度を表す副詞」がヒントになることが多い。

ex: always, usually, often, sometimes, seldom, never

(2) 不変の真理 (常に現在形で用いる)

Water boils at the temperature of 100°C

不変の真理 出題パターン(英文ではなく、和文のニュアンスで覚えること。)

- The earth goes around the sun. (地球は太陽の周りをまわっている。)
- The sun sets in the west. (太陽は西に沈む。)
- The earth is round. (地球は丸い。)
- The earth turns around on its axis. (地球は自転している。)
- Water boils at 100 degrees. (水は 100°C で沸騰する。)
- Water consists of hydrogen and oxygen. (水は水素と酸素からなる。)

① Rules of grammar; 21 不変の真理

「不変の真理」は永遠に変わらないもの。次の状態に変わることはないので、常に現在形で用いる。6つの出題パターンをおさえれば、ほぼ全て解答できる。

(3)ことわざ (常に現在形で用いる)

Time is money. (時は金なり) Practice makes perfect. (練習あるのみ)

過去 (過去形[Ved])

■過去＝過去のある点の事実を描写しているだけ。「(あの時)～ということがあった。」

I lost all of my money. ⇒ Q「私」は今いくら持っている？

①Rules of grammar; 22 過去形のイメージ

過去形は過去の出来事の描写。その後どうなったかは一切不明。

未来 (現在形・現在進行形[will V / be going to V など])

■未来時制＝未来のある点の事実を描写しているだけ。「(その時には)～だろう。」

It will be rain tomorrow.

英語には未来形はない？

動詞には現在を表す現在形と過去を表す過去形は存在する。しかし未来を表すときはどうだろうか。will は現在形だし、be going to は現在進行形である。英語には「未来形」という形はなく、現在形や現在進行形の「特定の形」を使って表している。

未来を表す特定の形

<input type="checkbox"/> will V	■ will be Ving	■ be supposed to V
<input type="checkbox"/> be going to V	■ be to V	
■ V / be Ving	■ be likely to V	
■ be about to V	■ be plan to V	

will と be going to V の違い

will(現在形)は意志的に未来を表すので、どちらかというとその場で。それに対し be going to V(現在進行形)は予定が進行しているイメージで、前々からの予定があるようなイメージ。

- A: Which set will you choose? (どっちのセットにする?)
B: Well... I will choose A set. (うーん、A セットにしようかな。)
A: By the way, what will you do after graduating? (ところで、卒業後は君は何するの?)
B: I'm going to study abroad for some years. (何年か留学することになっているんだ。)

未来時制の例外—時や条件を表す副詞節内

基本ルール

①時や条件を表す接続詞を作る ②副詞節で ③未来の事を表す場合、その時制は**現在形か現在完了形**で書かなければいけない。

「もし明日雨が降ったら、その試合は延期になるだろう。」

(×) <If it will rain tomorrow>, the game **will** be postponed.



(○) <If it rains tomorrow>, the game **will** be postponed.

if は接続詞で副詞節を作っている。tomorrow とあるように未来のことなので、雨が降るという動詞は will rain としたいところだが、今回は rains と現在形で書かなければいけない。

…ということは、①他の接続詞だったり、②名詞節だったり、③現在や過去の話だったり、した場合は、このルールは適用されない。

「その試合が明日延期になるのかどうか、私はわからない。」

(×) I don't know [if the game is postponed tomorrow].



(○) I don't know [if the game will be postponed tomorrow].

今回の if は名詞節を作っているので、未来のことは未来で書く。

For study

時や条件を表す副詞節の問題 出題パターンと解法

- ①未来を表すことだが、時や条件を表す副詞節内なので、現在で書かなければならない。
- ②未来を表す時や条件を表す節内だが、名詞節なので、普通に未来で書く。
- ③時や条件を表す副詞節内だが、過去(現在)の話なので、普通に過去(現在)で書く。

以上が文法問題で狙われるところ。時や条件を表す接続詞で、名詞節も副詞節も作る紛らわしい接続詞(疑問詞)は以下の2つ。

if	接続詞	副詞節「もし～なら」 名詞節「～かどうか」
when	接続詞 疑問詞	副詞節「～のとき」 名詞節「いつ～するか」 ※間接疑問文として使用。

また、意味からだけではなく、形からのアピールも大切。名詞節は名詞なので、主語、補語が他動詞の目的語の位置に来る。特に know や understand の目的語として来ることが多い。know の後ろにある if, when などとは即名詞節だと判断しよう。また、副詞節の場合は補足情報なので、文から除いても文の意味が通るということも特徴だ。

①Rules of grammar; 23 時や条件を表す副詞節中の時制

「もし～の場合」「～の時」といった意味をもつ副詞節中では、未来のことを表している内容でも未来時制・未来完了形は使わず、現在形・現在完了形を用いなければならない。

未来完了形は時や条件を表す副詞節では現在完了形になる。そのため、「時や条件を表す副詞節内」の時制が、現在完了形だった場合は「～を(完全に)し終わった時」と訳す。

Please delete this message when you have finished reading it.

(このメッセージを読み終わったら消去してください。)

ちなみにこの用例の場合は have finished でも finish でも大きな違いはない。

点の時制（２）―（現在・過去・未来）進行形

進行形 《一時的な動作の継続》

- 進行形の「進行」＝「 」＝(その点)と同時に動作が進行している
＝(その時)写真をとったら、その動作をしている姿が写ったというイメージ

現在進行形 [be ～ing]

- 現在進行形の「現在」＝「今この瞬間」。「今この瞬間」と同時進行。
We are studying English.

①Rules of grammar; 24 現在進行形のキーワード

現在形は「今この瞬間」を表す now, at the moment などがヒントになることが多い。

過去進行形 [was ～ing]

- 過去進行形＝「あの瞬間」と同時進行していた。
When you entered the room, I was studying English.

①Rules of grammar; 25 過去進行形のキーワード

過去進行形は「A が～していた時、B は...していた」というトーンの英文であることが多い。

未来進行形 [will be ～ing]

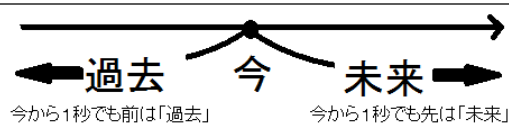
- 未来のある瞬間と同時進行。「来週のこの時間は！」的なイメージ
At this time next week, I will be teaching English.

①Rules of grammar; 26 未来進行形のキーワード

未来進行形は“at this time +未来表現”がヒントになることが多い。

定点（未来のいつのことか、過去のいつのことかを明示する点）

現在という、誰でも「今」のことだとわかるので、特に時間を明示する必要はないが、「過去」「未来」は、永遠に広がるものなので、「いつのこと」なのかを書かないといけない。これをこの授業では定点と呼ぶ。この定点にも着目することで、受験問題をより効率的に解くことができる。これは次回の「完了形」「完了進行形」にも使う大切な概念だ。



For study

未来を示す現在進行形 「(予定通り)～するだろう」→「～しかけている」

現在進行形は未来を表すことが可能だ。初耳に思うかもしれないが、よく考えてみると、be going to も現在進行形(be Ving)である。ニュアンスは「予定が着々と未来に向かって進行しているということ」。be going to も、「(その場で決めて)～するつもりだ」という意味合いが強い will と違い、「(計画的に)～するつもりだ」という意味を表す。以下の文はその一例だ。

My father is coming home tomorrow. (パパは明日帰るだろう。)

この come のように 1 回で終わるような動作が現在進行形になっている時はこの用法だ。他に例を挙げれば die(死ぬ)なども 1 回死んだらそれでおしまいである。これを進行形にして「死に続けている」というのは変。ま

さか毎日臨終している人はいないだろう。これも予定が着々と進行していることを表していて「死にかけている(まもなく死ぬ)」と言う意味。死にそんな人に現在形で「死んでいる」と訳すには早いし(あまりにも失礼だ)、かといって未来時制で「いつか死ぬだろう」という程には、もう時間がないので、「死ぬという予定まで着々と向かっている」という意味の現在進行形を使うと考えればわかりやすい。

Santa Claus is coming to town. (サンタが街にやってくる。)

有名なクリスマスソングの一節。come は一回来たたら終了する動作なのに進行形(サンタが街に 来続けている??) になっている。これはサンタが街に急接近しているニュアンスを表したいのである。クリスマス・イヴの子供のドキドキ感が伝わってくるだろう。「(予定通り)サンタが着々と街に到着しようとしている。」→「サンタが街に到着しかけている。」。

問 1 次の空所に入る最も適切な表現を選び、記号で答えよ(自習問題)。

1. My father () home tomorrow.
① is coming ② coming ③ came ④ has come
2. He () to my home tomorrow.
① is coming ② come ③ came ④ has come
3. I () to my home tomorrow.
② is coming ② come ③ came ④ has come

解説(=未来の時制は、未来形だけでなく、現在形・現在進行形のいずれでも正解。)

1. は未来を表す表現 tomorrow があるのに、未来形がないので、①の現在進行形が正解。
2. は未来を表す表現 tomorrow があるのに、未来形がないので、①の現在進行形が正解。②の現在形でもよさそうに思えるが、comes ではないと×。
3. は未来を表す表現 tomorrow があるのに、未来形がないので、②の現在形が正解。①の現在進行形でもよさそうに思えるが、is coming では受けられないので×。

状態動詞(基本的に進行形にしない動詞)(2行目まで覚えれば完璧)

know / resemble / belong to / contain / possess / have(所有する) / hear / smell / taste / see / feel / look / sound / like / love / dislike / hate / exist / consist / want / wish / envy / fear / appreciate / understand / recognize / remember / believe / think / mean / agree / recall / assume / relate / appear / involve

■ 進行形にできない動詞 =

① **Rules of grammar; 27** 状態動詞(基本的に進行形にしない動詞)

動詞の中には「状態動詞」という進行形にできない動詞がある(ちなみに進行形にできる普通の動詞は「動作動詞」と呼ぶ)。区別の仕方は「5秒ごとに動作を止めたり再開したりできるかどうか」。状態動詞は短時間で繰り返すことができない。

For study

強調の進行形

本来進行形にできないが、強調の為にわざと進行形にすることがある(ことばの世界では言語を問わず、強調のためにわざと文法的に自然な形を壊すことがある。：倒置,係り結びの法則など)。

I'm lovin' it! (マック大好き!) —マクドナルドのキャッチコピー

※lovin'= loving

5秒ごとに愛したり愛さなかったりできないので、love や like は状態動詞である。しかし、マクドナルドでは現在進行形にしている。これは「好き」を強調したいから。it はマクドナルド(またはハンバーガー)のこと。

問2 次の空所に入る最も適切な表現を選び、記号で答えよ(自習問題)。

1. I () my father.

- ① resemble ②resembles ③is resembling ④has been resembling

2. He () in Tokyo in this week.

- ① lived ②live ③was living ④is living

解説

1. resemble は状態動詞なので進行形にはしないので③④は×、②はsが付いているので①が正解。
2. in this week は現在を表す表現だが①③は過去の表現、②live は lives でないので×。④は live で状態動詞なので、進行形にしないのが基本だが、それだと正解がなくなってしまうので、「強調」だと考えて④が正解。「(いつもは違うが)今この瞬間は東京に住んでいる」という意味。

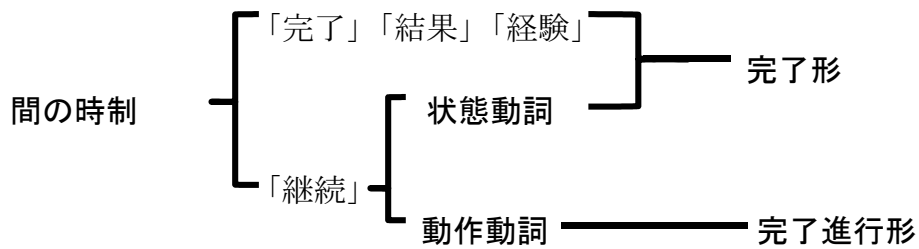
参考；間の時制のキーワード (詳しくは次回)

for +期間 since +点 by + 点 (例)for a long time, since 2015, by next week

How long～?の疑問文 by the time 節

For study

間の時制のイメージ

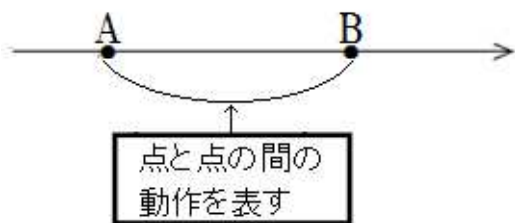


① Rules of grammar; 28 完了形と完了進行形の使い分け

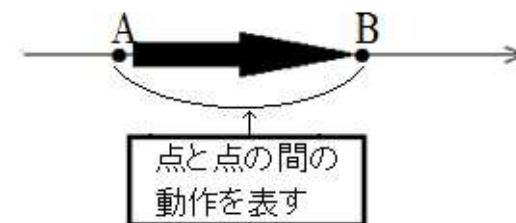
まず「完了」「結果」「経験」は完了形にしかない用法なので、完了形で表す。「継続」は基本的に完了進行形の専門なので、完了進行形で表すが、 の場合は、完了進行形で表すことが不可能なため、完了形の「継続」用法で代用する（上の図参照）。

間の時制—（現在・過去・未来）完了形・完了進行形

（現在・過去・未来）完了形



（現在・過去・未来）完了進行形



間の時制のスタイル＝A点とB点の間ずっと、動作や状態が継続している様子を表す。A点とB点の時間がいつかは時制による(各時制を参照)。

間の時制のキーワード

for + 期間 since + 点 by + 点 (例) for a long time, since 2015, by next week
How long～?の疑問文 by the time 節

間の時制(完了形・完了進行形)が言いたいのは、「B点」のこと。A点がいつかということには興味はない。なので、定点を置く場合は、「B点」に置く(sinceのみ例外)。

間の時制の4つのニュアンス

名前よりも、訳し方と、イメージをつかむ方が大事。そのために例文をひとつずつつけておいた。

完了・結果 A点で動作が終わり、その状態がB点に続いている。

The plane has already taken off.
(飛行機はすでに離陸した。)

A点で飛行機は離陸し、B点は離陸は「完了」しており、その「結果」その飛行機は、今もう空港にはいないことがわかる。already, yetなどがキーワードになることが多い。

経験 A点で新たな経験をし、その状態がB点に続いている。

I have been Kyoto twice.
(私は京都に2度行ったことがある。)

少しわかりづらい概念。A 点で京都に 2 度行ったことのある自分に変わり、B 点でもその状態の自分が続いている(つまり 3 回目はまだ)ということ。ever, never などの経験を表す副詞や、twice, three times などの回数を表す副詞がキーワードになることが多い。

継続 A 点から B 点まである動作がずっと継続している。for + 期間などの「間のキーワード」が使われることが多く、最もわかりやすい概念。

I have been reading this book for 4hours.
(私は 4 時間の間、この本を読んでいる。)

A 点から本を読み始め、B 点の今も読んでいることが分かる。この場合の継続は、「4 時間本を読んでいる」のように休みなく続くものでもいいし、「6 年間英語を勉強している」のように遠い目で見ているものでもいい。

For study

次の文を検討せよ。

1. I lost all of my money.
2. I have lost all of my money.
3. He is studying English.
4. He has been studying English for five years.

検討材料

1. ①点の時制(過去)と間の時制(現在完了)の違いは？
②”I”はいまはいくらもっているのか？
2. ①点の時制(現在進行)と間の時制(現在完了進行)の違いは？
②”He”の英語の学習暦はどれくらい？

現在完了 / 現在完了進行 (現在完了形[have Vp.p.]・現在完了進行形[have been Ving])

A 点＝過去⇒B 点＝現在

過去のある点から、今まで動作や状態が続いている。

examples

- ① The plane has already taken <off>. (完了・結果)
S V
(飛行機はすでに離陸した。)
- ② I have been reading this book <for 4hours>. (継続)
S V O
(私は 4 時間の間、この本を読んでいる。)

過去完了 / 過去完了進行 (過去完了形[had Vp.p.]・過去完了進行形[had been Ving])

A 点＝大過去(B 点よりもっと前の過去)⇒B 点＝過去

過去のある点から、今まで動作や状態が続いている。

examples

- ③ I recognized Tom <because I had seen him before>. (経験)
S V O S V O
(前に一度会ったことがあるので、私はトムが分かった。)
- ④ I had been studying English <for six years>. (継続)
S V O
(私は 6 年間英語を勉強していた。)

未来完了形(will have Vp.p.)・未来完了進行形(will have been Ving)

A 点＝過去 ➡ B 点＝未来

過去のある点から、未来のある点で完了するという予告。

examples

⑤ I will have known him <for ten years>< by next year>. (継続)

S V O
(来年には私は彼を 10 年間知っていることになる。)

⑥ I will have been working <for this company><for three years><by next month>. (継続)

S V
(私は来月で 3 年間この会社で働いていることになる。)

時制の慣用表現

have been to / have gone to

examples

① I have been to London.

S V
(私はロンドンに行ったことがある。)(経験)

② He has gone to London.

S V
(彼はロンドンに行ってしまった。)(結果)

①の文は、「私」はここにいるが、②の文の「彼」は今、ロンドンにいる。文法問題で have gone to を選ばせる時は、「彼は今日休みだ。」「彼がここにいるはずがない。」などの文が添えてあることが多い。

「ーしてから～年になる。」 5 パターン

examples

① He died <ten years ago>.

S V

② He has been dead <for ten years>.

S V C

③ Ten years have passed <since he died>.

S V S V

④ It has been ten years <since he died>.

S V C S V

⑤ It is ten years <since he died>.*

S V C S V

(彼が死んで 10 年になる。)

①は単純に過去形で、②～④は現在完了形で書いたもの。しかし⑤は間のキーワードをとりつつ、時制が現在形をとっている。この 5 つはどれも書けるようにしておこう。

時制の一致

基本的に主節の V が過去形だった場合、従属節の中の V もその時制に合わせる作業をする。

He said that he is a student. (彼は学生をしていると言った。)

日本語では自然に聞こえるが、これは日本語が英語の時制に対応できていない証拠。例えば、said したのを 80 年前だということにすれば、おかしいと気づくだろう。

He said <eighty years ago> that he is a student. (彼は 80 年前に学生をしていると言った。)

この場合、「彼が言ったのは 80 年前だが、彼は今、学生である」ということになってしまう。80 年前の彼が、「今」学生なはずがない。よって時制を合わせる。これを「時制の一致」という。

He said that he was a student. (彼は学生をしていると言った。)



TACTICS 時制の問題の解き方

《解法の王道》

①「点のキーワード」「間のキーワード」を本文に探す。

→ 点のキーワードがあったら選択肢から間の時制を消去。

→ 間のキーワードがあったら選択肢から点の時制を消去。

※点のキーワードと定点を間違えないように注意

②「現在」「過去」「未来」で選択肢を切る。

キーワードが見当たらない時 / それ以外の出題パターン

◆状態動詞 … 進行形にしてはいけない。

◆時や条件を表す副詞節内 … 未来のことでも現在形。

◆不変の真理・ことわざ … 常に現在形で表す。

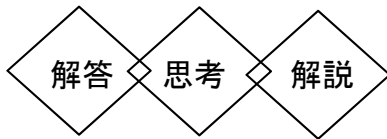
◆慣用表現

理解のための英文法良問

【時制】

次の英文の空所を補うものとして最も適切な選択肢を選びなさい。

1. By next week you () the package.
①will have received ②receiving ③received ④receive
2. What () on February 16th in 1965?
①had happened ②happened ③has happened ④is happening
3. My father usually () home from work at 7:00 p.m.
①coming ②comes ③come ④has come
4. This flowers () lovely.
①smell ②are smelling ③are smelt ④are being smelt
5. At this time next year, I () in Canada.
①am skiing ②have skied ③ski ④will be skiing
6. I () in Tokyo since last Friday.
①was ②had been ③am ④have been
7. According to the weather report, it () cloudy tomorrow.
①was ②were ③has been ④will be
8. When () your homework?
①are you finished ②have you finished ③have you been finished
④did you finish
9. I don't know if my sister () us tomorrow, but let me ask her.
①will help ②helps ③helped ④has helped
10. There was somebody at the door when I () a shower.
①was taking ②will take ③have taken ④would take
11. I () Jack since he was a small child.
①have known ②am knowing ③will know ④have been knowing



1.①

By+期限「～までの間」＝「間の時制」のキーワード。この瞬間に①しかない。即答だ！②はそもそも動詞ですらない。

2.②

On February 16th in 1965 は「過去」の「点の時制」のキーワード。答えは②しかない。

3.②

usually は頻度を表す「現在形」のキーワード。「最近パパ7時に帰ってくる」という意味がピッタリだ。①はそもそも動詞ですらない。

4.①

ヒントがなさそうに見える。そこで **smell** という動詞に注目。そうか、こいつは進行形にしない動詞だった。ということで②はダメで答えは①。③「においがされてる」④「においがされているところ」は意味不明。

5.④

At this time next year＝未来進行形のキーワードで即答。これはわかりやすすぎてあんまり出ません(笑)

6.④

since+点＝「間の時制」のキーワードなので、その瞬間①と③は×。さらに重要ポイント。since は必ず「～から(今まで)」という時にしか使えず、現在完了形しか作れない。答えは④。この **be** 動詞は第1文型なので、「ある、いる、存在する」と訳す。I have been in Tokyo.で「東京にいる」。

7.④

tomorrow＝「未来」の「点の時制」のキーワードで④。ちょっと簡単すぎ？

8.④

When~? の疑問文は「点の時制」を聞く。なので②と③はダメ。①だと「あなたはいつ終わらせられたの？」という怖すぎる英文になる(笑)。さすがにそれはちょっとダメです(笑)。

9.①

tomorrow があるので未来の話だ。しかし今回は if 節(条件を表す接続詞)内なので、②の **helps** にしなければならない…と思いきや、この if は「もしも～」ではなく、**know** の目的語の名詞節を作っている if 「～かどうか」なので、例のルールは適用されない。よって普通に未来形で書きましょう。答えは①。**know** は後ろに名詞を持ってくる他動詞であることと、進行形にできないということで、時制では超重要な役割をしているぞ！

10.①

よく見て！「だれかがドアのところにいた。その時私はシャワーを浴びていた」って、どこかで聞いたリズムではないかい？そう。これは過去進行形！「誰かがドアのところにいた」それと同時進行で「私はシャワーを浴びていた」ってこと。ってそれはのぞきだろ！！

11.①

since+点のキーワードから、まず②と③は即消去！そこで①と④だけが残ったことにピンとくるはず。そうです。**know** です。こいつは進行形にしない動詞の代表格。ということでももちろん完了進行形にもできるはずはない！答えは①。この通りに解けたのであれば、もう時制は大丈夫だと思います。はい。

12. It () all day. I wonder when it will stop.
①has snowed ②has been snowing ③snows ④snowed
13. I'll see my parents before I () Japan.
①leave ②left ③will leave ④have left
14. I () for a long time, but he hasn't come yet.
①wait ②am waiting ③have been waiting ④have been waited
15. She used to go swimming every Saturday, but she () for nearly a year.
①hasn't swum ②doesn't swim ③wasn't swimming ④wouldn't swim
16. When Typhoon No.13 hit western Japan, it () five people.
①has left ②leaves ③left ④was leaving
17. My grandparents () for exactly fifty years by next April.
①will be married ②married ③will have been married ④have been married
18. I don't know if he () back next spring.
①will come ②comes ③had come ④came
19. By the time John got to the house, they () lunch and gone into the living room.
①had finished ②have finished ③finished ④were finishing
20. If water is heated to 100 degrees C, it () as steam.
①boiled and escaped ②would boil and escape
③boils and escapes ④would have boiled and escaped
21. Can I ask you lend me the magazine when you () reading it?
①finished ②have finished ③will finish ④will have finished

12.②

これ、all day がキーワードなのはわかるんだけど、これを点でとって③と言う人が多いんじゃないかな？いや、all day っていうのは「一日中」っていう意味だよ？つまり「24 時間の間」ってこと！だからこれは間の時制です。snow は「雪が降る」っていう動作動詞なので、「継続」を表すには②の形にしよう。①だと「降り終わった」感じになる。そうすると I wonder when it will stop. 「いつ降り止むのかと思っている」と合わないでしょ。意味もなく問題文が2文あるわけじゃないんです！これが問題作成者の意図。そこまで見抜く俺ら、すごいでしょ。ちなみにこの when 節は「時を表す接続詞」で未来を表すけど、wonder「～かと思う」の目的語になっている名詞節「いつ～するのか」ってやつなので、普通に未来形でよいのよ。

13.①

でもこっちは未来形ダメです。before は時を表す副詞節しか作りません。I'll see と言っているようにこれは未来の事なので、答えは①。

14.③

for a long time は「間の時制」のキーワード。答えは③か④か。これよくあるひっかけです。「待たされた」んだから④ってやる人がすごくいるんだけど、それじゃ「待たれた」だからね。「待たされた」は③が正解。「私」が「待っている」だから ing 形でいいのです。

15.①

前の every Saturday をキーワードでとらないように。それは前の used to go「行ったものだった」っていう点のキーワード。but 以降は for nearly a year の間のキーワードなので、答えは①で即答ですよ。

16.③

hit は現在形も過去形も過去分詞形も hit なのでわかりにくいけど、これは意味的に考えて過去形だろうね。だから答えは③でよろしい。

17.③

For exactly fifty years by next April というのは「次の4月までに」という未来の定点と「ちょうど50年の間」という「間の時制」のキーワードの共演。答えは③でしょう。今の時点ではまだ50年ではないことにも注目だ。

18.①

この if は know の後ろにあるから名詞節。よって①です。

19.①

By the time SV という「間の時制」のキーワードと got という過去を表す語があるので、答えは①。

20.③

読んで即答で③。不変の真理はほとんどあの6パターンからしか出ない。

21.②

これはちょっと特殊なやつです。when 節の中で現在完了形が使われている場合は、必ず「～し終わった時」となるということを知ってください。未来完了が時や条件を表す副詞節内で現在完了になっているんです。こいつはいつものルールとは別に覚えてもらった方がいいかもしれません。

22. The telephone () for almost a minute. Why doesn't someone answer it?
①rings ②rang ③has been ringing ④had been ringing
23. When I was in high school, I () the tennis club.
①belonged to ②was belonging to ③have belonged to ④has belonged to
24. Tadashi () in Turkey for three years, when the earthquake happened.
①was ②had seen ③had been ④would be
25. I have () to Kyoto twice.
①being ②been ③going ④gone
26. Jenny's parents () the movie. So I'm babysitting her now.
①have gone to ②have been to ③have been for ④would have been
27. I () an American novel for about two hours when she came to see me .
①had been reading ②had read ③was reading ④have been reading
28. I believed the earth () flat in my childhood.
①is ②was ③were ④are
29. My teacher taught me the earth () the sun.
①goes around ②went around ③had gone to ④go around
30. Eric's friends, Minoru and Sachiko, will be here at seven this evening.
He [11] doing his homework by then.
①has been finished ②has finished ③will have finished ④would finish



22.③

for almost a minute 「ほとんど1分間」から、「間の時制」で①と②は×。③か④だが、2文目の「どうして誰も出ないんだい？」という文から③に決定。ね。無駄に2文書いてあるわけじゃないんだって！

23.①

When I was in high school.これが「過去」の「点」ですよね。だから①か②しかない。で、belong to っていうやつは、もう文法問題で出てきたら「進行形にしない」ということしか聞かれないんで、安定の①でFA。

ちなみに When I was in high school も was は第1文型なので「ある、いる、存在する」だね。「私が高校にいたとき」。

24.②

When the earthquake happened これが「過去の定点」になっていて、for three years が「間の時制」なのだから、答えは過去完了の③。これも第1文型の be 動詞。「地震が起こった時点で、タダシはトルコに3年いたところだった。」その後タダシがどうなったかはわかりません。それが過去完了。

25.②

twice が2回という「経験」のキーワード。「いったことがある」を表す時は、「継続」で have been を使う。

26.①

2文目よく見てね。「だから私は彼女を今ベビーシッティングしている」という現在進行形でしょ。ということは両親は「今」映画に行っていないんだよね。その場合は「完了」の have gone を使います。

27.①

When she came to see me が「過去の定点」と for about two hours という「間のキーワード」から答えは①。

28.②

地球が丸い形の文だ！そう！不変の真理！ということで答えは①！！……とやった人。甘い！よく見なさい！earth () flat って書いてあるでしょ。flat ってわかる？「平ら」ってこと！地球ってぺっちゃんこでしたっけ？違いますよね。これ、よく読んでみると「私は子供の頃地球は平らだと信じていた。」っていう、ただの子供の誤解です。これは不変の真理ではないので、believed に合わせて②が正解。不変の真理と見せかけて実はそうじゃないというひっかけでした。

29.①

これは文句なしで不変の真理ですよ。taught って過去形だけど、それには合わせず現在形で大丈夫。

30.③

最後はなんと 2013 年のセンター試験で出題された問題を持ってきたものです。センター試験の文法問題は本当に理解していないと解けないいい問題が多いんですよね。じゃあ解説しましょう。ちなみに 11 なのはセンターの問題番号なので気にしないで。まず、二文ありますから、必ず前の文をヒントにしてね。「エリックの友達、ミノルとサチコは、今晚7時に(点のキーワード)、ここにいるでしょう(またもや be 動詞第1文型)。」つまりエリックの友達がここに遊びに来ると。そして、「彼はそのときまでに(by then=間のキーワード)宿題を 11」というのが2文目。お答えはどうでしょうか。もちろん、未来の話で間のキーワードだから③が正解だ。「エリックは宿題を終わらせているでしょう」。まだ宿題が終わっていない、未来完了の典型でした。どうですか。今年のセンターまで攻略してしまいましたが、自信のつく30題だったでしょうか！

Original Handouts

[4] 助動詞 auxiliary verbs

CHART ～攻略への海図～

- ☐ 助動詞の意味を覚える。
- ☐ 紛らわしい助動詞を覚え分ける。
- ☐ 慣用表現・助動詞+have+p.p.を覚える。
- ☐ 4択問題を大量に解いて、一気に攻略する。

助動詞ってなに？

動詞を助ける詞と書いて助動詞と読むように、動詞に意味を付け足して、さらに詳しくするはたらきをする。
助動詞の後は動詞の原形が来る(時制は助動詞で表す)。



For study

なぜ助動詞の後は動詞の原形なのか？

原形+助動詞＝現在形，過去形

I **play** baseball.

He **plays** baseball.

I **played** baseball. Does he play tennis?

I **can play** baseball.



～学習の指針～

助動詞は基本的に意味を覚えるだけでいい。文法的にはどれも「動詞の前に置いて、後ろの動詞が原形になる」という機能しかないので、時制などのように形から見分けることもできない(had better, ought to の否定などは例外)ので、文法問題でも訳してみても、意味から判断していけばそれでよい。



TACTICS 助動詞の問題の解き方

《解法の王道》

①助動詞は意味(訳)から解くのが基本

②形から解く問題も若干ある。

- ・ had better not / ought not to / don't have to の not の位置
- ・ used to / ought to を() to の位置に入れる
- ・
- ・

助動詞基本表現 (①有意志動詞 ②無意志動詞)

可能の助動詞

<input type="checkbox"/> can[could]	①能力「～できる」 ②可能性「～しうる」
<input type="checkbox"/> can't	⇔①能力「～できない」 ⇔②不可能「～のはずがない」

examples

① I can speak English.
S V O
(私は英語が話せる。)

② It can be rain.
S V
(雨が降るかもしれない[降る可能性がある]。)

③ The man could not be my father <because he died last year>.
S V C S V 副詞的目的格
(その男が父であるはずがない。彼は昨年亡くなったのだから。)

義務の助動詞(1)

<input type="checkbox"/> must	①義務()「～しなければならない」 ②断定「～に違いない」
<input type="checkbox"/> mustn't	⇔①禁止「～してはいけない」
<input type="checkbox"/> have to	①義務()「～しなければならない」
<input type="checkbox"/> don't have to	⇔①不必要「～しなくてもいい」

For study

- ◆ must と have to の否定形の意味の違い
- ◆ mustn't で②「～のはずがない」は表せない ⇒ can't を使う

問 1 次の①～④の中から、正しいものを選び。

Weather reports said that it will be fine, so it () rain. (it=天気)

- ① mustn't ② cannot ③ don't have to ④ must

問 2 次の①～④の中から、正しいものを選び。

I'm sorry, but you () leave your bicycle here. If you do, you'll get a parking ticket. (a parking ticket = 駐車違反票)

- ① don't have to ② haven't got to ③ mustn't ④ needn't (青山学院・総文・2012)

examples

① You must contact our boss.
S V O
(君は我々の上司に連絡をしなければならない。)

② He must be a doctor. ⇔ cf. He cannot be a doctor.
S V C S V C
(彼は医者には違いない。)(彼が医者のはずがない。) × must not

③ You must not talk <with your colleague><while meeting>.
S V
(会議中は同僚と話をしてはいけない。)

④ You have to obey the traffic rules.
S V O
(交通ルールには従わなければならない。)

⑤ You don't have to allow his offer.
S V O
(あなたは彼の提案を許可する必要はないよ。)

義務の助動詞(2)

<input type="checkbox"/> should	①当然「～すべき」	②推量「～なはずだ」
<input type="checkbox"/> ought to	①当然「～すべき」	
<input type="checkbox"/> ought not to	⇔①「～すべきでない」	
<input type="checkbox"/> had better	①勧誘「～したほうがいい」	
<input type="checkbox"/> had better not	⇔①「～してはいけない」	

For study

◆ought to と had better の否定形の not の位置

問3 次の空所に入る適切な語句を選び、記号で答えよ。

You () eat too much meat for your health.

(a) ought not to (b) have not to (c) had not better (d) ought to not

(正しい形は ought not to, had better not, don't have to)

examples

①You should [ought to] choose B-set.

S V O
(あなたはBセットを選ぶべきです。)

②You ought not to sell the book.

S V O
(その本を売るべきではない。)

③You had better read this book <by next week>.

S V O
(この本を来週までに読んでおきなさい[読んでおく方がいいよ]。)

④You had better not miss the last train.

S V O
(終電に乗り逃さないようにしなさい[乗り逃さない方がいい]。)

推量の助動詞

<input type="checkbox"/> may[might]	①許可「～してもよい」	②推量「～かもしれない」
May SV～.	《古》～でありますように (祈願文)	

examples

①May I come <in> ?

S V
(入ってもいいですか。)

②You might be promoted.

S V
(あなたは昇進するかもしれません。)

③May the Force be <with you>. [STAR WARS]

S V
(フォースが共にあらんことを。)

①は入室時の礼儀として用いられ、英検の二次試験などでも用いられるが、中学生の受験生は「入ってからこの挨拶をする」というので有名である。このセリフはノックしたときに言うように。入ってからでは遅い。

②might は時制の一致以外では基本的に「過去」を表さず、「婉曲感」や「丁寧感」「非現実感」を出す(詳しくは時制や仮定法の項で)。

③は文の形は疑問文と同じ形だが、文末をピリオドで終わらせることでできる。古い詠嘆の文なので、日常では基本的に使わない。訳出も「～し給え。」などとすると感じが出る。

意志の助動詞

<input type="checkbox"/> will	①単純未来「～だろう」 ②意志未来「～しよう」
<input type="checkbox"/> shall	
<input type="checkbox"/> would	+③過去の習慣「～したものだった」
→大抵は would often の形。動作動詞としか使えない。	
<input type="checkbox"/> wouldn't [won't]	⇔②拒絶「(どうしても)～しようとしなかった」
<input type="checkbox"/> used to	①過去の習慣「～したものだった/だったものだった」

→動作動詞の他に、状態動詞とも使える。

For study

- ◆will は「自分の意志」、shall は「神様の意志(=運命)」
- ◆would の「過去の習慣」
- ◆wouldn't の「拒絶」→「どうしてもドアが開かなかった。」で頻出。
- ◆would 「過去の習慣」と used to の違い。

問3 次の空所に入る適切な語句を選び、記号で答えよ。

After the earthquake, the door () not open.

(a) wouldn't (b) shouldn't (c) will (d) won't

examples

① I would often go <to the sea> <after school> <in my school days>.

S V
(学生時代、放課後にしばしば海へ行っていたものだった。)

② Mary will not accept other's opinion .

S V O
(メアリーは人の意見を聞き入れようとしない。)

③ This car would not move.

S V
(この車は動こうとしなかった。)

④ I used to avoid such a communication .

S V O
(私はそのようなコミュニケーションを避けていたものだった。)

⑤ <There> used to be a post office <on the hill> .

V S
(丘の上には、郵便局があったものだった。)

⑥ I shall return. Cf: I will be back. —ターミネーター

S V C
(私は帰ってくる運命にある。)—ダグラス・マッカーサー

助動詞の慣用表現

can の慣用表現

<input type="checkbox"/> can't help V ing	}	「V せずにはいられない」
<input type="checkbox"/> can't avoid[stop] V ing		
<input type="checkbox"/> can't help but V		
<input type="checkbox"/> can't but V		
<input type="checkbox"/> can't afford to V		「V する余裕がない」
<input type="checkbox"/> can't V ~ too...		「V してもしすぎることはない」

examples

① I couldn't help laughing <at him> <when I saw him>.

S V O S V O
※この help は「～を避ける」という特別な意味。無意識に

② I couldn't avoid[stop] laughing <at him> <when I saw him>.

S V O S V O

※ help よりも避けようと意志的をもちつつも避けられないニュアンス (笑うまいとしたが笑ってしまう)。
 ※ stop はすでに行っていることを止められないニュアンス (笑うのをやめようとしたが笑ってしまう)。

③ I couldn't help but laugh <at him> <when I saw him>. ※構文的には例外的。
 S V V S V O

④ I couldn't but laugh <at him> <when I saw him>.
 S V S V O

※but は「～を除いて」という前置詞。
 (彼を見た時、私は笑わずにはいられなかった。)

⑤ You cannot be <too> careful <when you drive a car>.
 S V C S V O
 (車を運転するときは注意してもしすぎることはない。)

would の慣用表現

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> would like to V | 「V したい」 |
| would like O to V | 「O に V してほしい」 |
| <input type="checkbox"/> would rather V ₁ ~ than V ₂ | 「V ₂ するより V ₁ した方がましだ。」 |
| ⇨ would rather not V | 「V したくない」 |

examples

① Would you like something (to eat)?
 S V O (V)

(食べ物はいかがですか。(=あなたは何かを食べたいですか。))

② I would like you [to do that].
 S V O C (V) ①

(私はあなたにあのようにして欲しい。)

※want to V~, want O to V~が命令口調なのに対し、ある程度柔らかな態度になる。

③ I would <rather> ride the train <than the bus>.
 S V O 接 O

(私はバスに乗るより、電車に乗りたい。)

→仮定法(P.57)表現の would rather と区別せよ。would には助動詞と他動詞の二つの用法がある。他動詞で使う場合は目的語に that 節を取り、that 節内は仮定法で書くことになっている。

④ I would <rather> [that I were rich <enough>].
 S V O S' V' C'

(私はバスに乗るより、電車に乗りたい。)

may の慣用表現

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> may well V | ①「～するのは当然だ」 |
| | ②「きっと～だろう」 |
| <input type="checkbox"/> may[might] as well V | 「V する方がいい。(V するのも同じだ。)」 |
| <input type="checkbox"/> may[might] as well V ₁ as V ₂ | 「V ₂ するより V ₁ した方がましだ。
(V ₂ するのは V ₁ するようなものだ。)」 |

For study

may well V の 2 つの意味

may 「 」	+ well 「確かな根拠」	= ①～するのは当然だ
may 「 」	+ well 「強調」	= ②きっと～だろう

may as well V (might as well V₁ as V₂) の原義

may 「推量」 + as 「同じくらい」 + well 「程度」 V (+ as 「～と比べて」 V)
 = 「他に良い選択肢もないので、これでもいいのではないか」という気持ち。

日本語クイズ 「同じ」という表現が比較級になる??

あなたは海外旅行に來ています。ここはあまり治安の良い国ではありません。観光地で、友達と一緒に記念写真を撮りたいので、誰かに写真を撮ってもらおうと思うのですが、現地の人に頼むとカメラを持ち逃げされてしまうかもしれないので、あなたは日本人観光客を探してキョロキョロしています。ところが、日本人はなかなか見当たりません。そうこうしているうちに友達がイライラして、こう言いました。「①もう現地の人も同じだよ!」

問1 下線部①で友達が言いたいこととして正しいものはどちらか答えなさい。

- ア. 現地の人も日本人も安全性の上では同じであるということ。
イ. いない日本人を探すなら、もう現地の人に撮ってもらった方がいいということ。

examples

① He may well be angry <with her>.

S V C
(彼女のことで彼が怒るのもっともだ。[彼女のことで彼はきっと怒っているだろう。])

② It's not very far, so I may[might] <as><well> walk.

S V C S V
(そんなに遠くないので、歩いたほうがいい[歩いて同じだ。])

③ You might <as><well> throw your money <away> <as buy such a thing>.

S V O V O
(あんなものを買うなんて、お金を捨てるようなものだ[お金を捨てた方がましだ。])

For study

形から解ける問題

問4 次の①～④の中から、正しいものを選び。

It takes so long by train. You () as well fly. (青山学院・総文・2008) (It takes so long = 非常に時間がかかる)

①should ②might ③can ④would

助動詞+have+p.p.

過去の意味を持たない助動詞はこの形を使って過去を表わす。

過去の推量

- | | |
|---|-------------|
| <input type="checkbox"/> cannot have p.p. | 「～したはずがない」 |
| <input type="checkbox"/> must have p.p. | 「～したにちがいない」 |
| <input type="checkbox"/> could have p.p. | 「～したかもしれない」 |
| <input type="checkbox"/> may[might] have p.p. | 「～したかもしれない」 |
| <input type="checkbox"/> should have p.p. | 「～したはずだ」 |
| <input type="checkbox"/> ought to have p.p. | 「～したはずだ」 |

過去の後悔

- | | |
|---|------------------------|
| <input type="checkbox"/> should have p.p. | 「～すべきだったのに」 |
| <input type="checkbox"/> ought to have p.p. | 「～すべきだったのに」 |
| <input type="checkbox"/> need not have p.p. | 「～する必要はなかったのに(してしまった)」 |

examples

① He is <so> young <that he cannot have written this letter>.

S V C S V O
(彼はとても若いからこの手紙を書いたはずがない。)

② She must have left the office.

S V O
(彼女はオフィスを出たに違いない。)

③ Something may have happened <to him>.

S V
(彼に何かが起きたのかもしれませんが。)

④ You should have done homework <earlier>.

S V O
(もっと早く宿題を終えるべきだったのに。)

⑤ The letter should have arrived <by now>.

S V
(その手紙は今頃はまだ着いているはずだ。)

⑥ You need not have finished [reading the book].

S V O ⑤ ⑥
(その本を読み終える必要はなかったのに。)

For study

形から解ける問題

問5 次の①～④の中から、正しいものを選び。

It was a very wonderful exhibition. You () to have seen it. (青山学院・総文・2009)

①ought ②have ③must ④should

・ would / could / should / might は過去をもたない助動詞

この4つの助動詞はそれぞれ will / can / shall / may の過去形ではあるがこれらは基本的に「仮定法」や「婉曲(丁寧)表現」を表すのに使われるもので、「過去」の時制を表すことは滅多にない(時制の一致の場合くらい)。過去の意味を表す時には、この助動詞+have+Vp.p.の形を用いる。must や ought to も同様である。

・ should 「すべき」は shall の婉曲の意味。

運命「することになっている(=しなければならない)」の shall が過去形になることで婉曲化され、義務「すべき」の should になった。

その他の助動詞

<input type="checkbox"/> dare(疑問文・否定文で)	「あえて(勇気をもって、生意気にも)～する」
<input type="checkbox"/> How dare S ～?	「よくも～ができるね。」 (=どんな風に(考えて)～をあえてやるのか?)
<input type="checkbox"/> need (疑問文・否定文で)	必要「～する必要がある」

examples

① He will dare anything. (動詞の dare)

S V O
(彼はあえてどんなことでもするだろう。)

② I daren't go <there>. (否定文)

V
(私はそこに行く勇気がない。)

③ How dare you say such a thing? (疑問文)

S V O
(よくもまあ、そんな口が利けるね。(=どうしてそんなことを言えるんだい))

④ I need your help. (動詞の need)

S V O
(あなたの助けが必要です。)

⑤ You needn't response this e-mail. (否定文)

S V O
(このメールに返信する必要はありません。)

Original Handouts

[5] 仮定法 subjective mood

CHART ～攻略への海図～

- 過去形の用法を理解する。
- 仮定法の仕組みを理解する。
- 仮定法を必ずとる表現を覚える。
- 仮定法の慣用表現(もし～がなければ)を覚える。
- 問題を解いたり、表現を見ていきながら、仮定法の仕組みがどう出題されているかを知る。

仮定法ってなに？

現実とは違う事態を話す時の文(仮想世界の文)。ただし、あり得る事を仮想する場合は、直説法を用いて、仮定法は使えない。飽くまで実現の可能性が限りなく小さい時に使う。



Compass ～学習の指針～

仮定法ほど、理解が必要で、また理解をすれば一気に簡単になる分野はないだろう。まずは仮定法の原理の理解を教室でしっかりしてほしい。その後は、問題でその原理を確かめていく。そうしないと、実戦(文法問題もそうだが、特に長文中で)で仮定法を見抜くことができない。仮定法は時制と見た目が同じであることに注意しよう。

For study

仮定法のサインは「 」(ではない！)

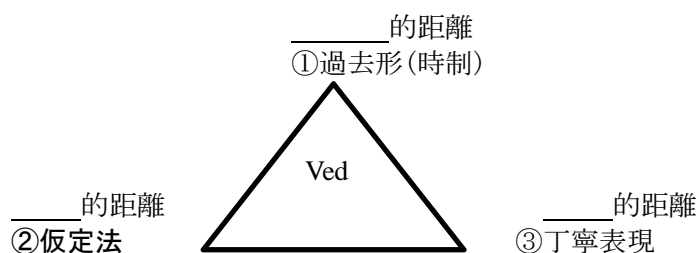
問1 次の文が仮定法なら○、仮定法でないなら×と答えなさい。

- (1) If it rains tomorrow, I will stay at home.
- (2) Without your help, I wouldn't do today's task.

仮定法のキーコード

- ① 明らかに現実的ではない表現は仮定法。
- ② if の副詞節(「もしも～なら」)と、過去形や大過去形が共存していたら仮定法。
- ③ 条件節か帰結節のどちらかが仮定法の時はもう片方も仮定法。
- ④ now など「今」を表す表現があるのに、動詞が過去形なら仮定法。同じように yesterday など「過去」を表す表現があるのに、動詞が大過去形なら仮定法。
- ⑤ 仮定法を使うと決まっている表現は仮定法。

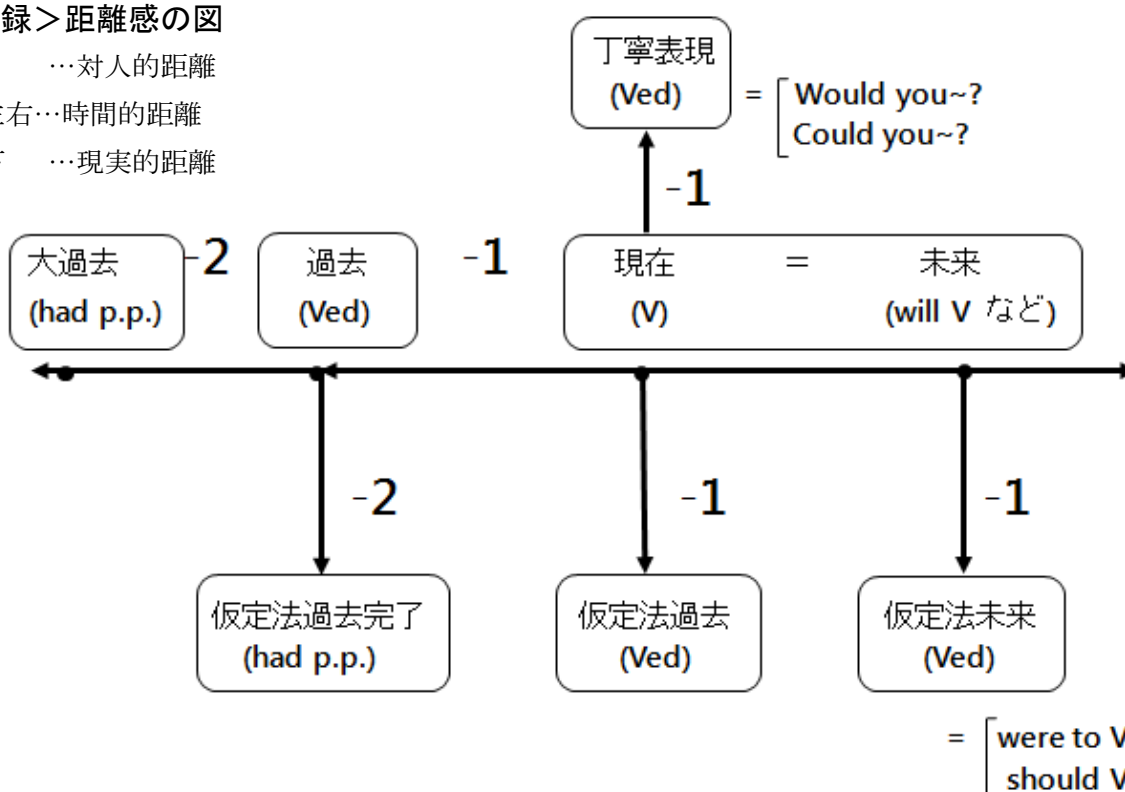
過去形は過去を表すだけじゃない！—過去形の3つのキヨリ



…仮定法のサインは時制と共有なので、見極めることが必要！

<付録> 距離感の図

上 …対人的距離
左右…時間的距離
下 …現実的距離



過去を表す過去形も、丁寧表現の過去形も、仮定法の過去形もみんな Ved で見た目は同じ。

過去の前の過去を表す大過去も、過去の仮定の仮定法過去完了もみんな had p.p. で見た目は同じ。

☞左の仮定法のキーコードから、仮定法の過去形を見抜く！！

仮定法の基本構造(1)—仮定法過去・仮定法過去完了

基本構文

If S Ved～, S 助動詞 ed V原 —
もしも～なら、 —なのに。
(条件節) (帰結節)

仮定法では、従属節(接続詞等がついている節。「もしも～なら、」の部分)を**条件節**、主節(「—なのに。」の部分)を**帰結節**と呼ぶ。この構文であれば、仮定は2つあるのが普通である(↑両方のVの部分)。

➡仮定法を見つけたら、動詞を○でくくって、そこに距離感を書き込もう！

例： If he ² had been here ^④ yesterday, I ¹ would be happier ^④ now.

まずは仮定法のキーコードを使って、仮定法を発見する。

- ② if の副詞節の中なのに、動詞が大過去 → 仮定法
- ④ yesterday は過去の点のキーワードなのに、動詞が大過去形 → 仮定法
- now は過去の点のキーワードなのに、動詞が過去形 → 仮定法

以上から、この文は仮定法であると判断！そこで動詞に○をつけて距離感を書き込む。すると条件節は距離感が2、帰結節は距離感1だとわかる。ということは、**条件節は過去の仮定、帰結節は現在の仮定**ということだ！あとはそれに合うように仮定のニュアンスを入れて訳せばOK。

「もしも昨日彼がここにいたら、私は今もっと幸せだろうに。」
もしも昨日彼がここにいたら ⇒ 実際はいなかったから仮定
私は今もっと幸せだろうに ⇒ 実際は幸せではないので仮定

examples

- ① <If I were a minillonare,> I could buy the sports car.
S V C S V O
(もし私が大金持ちだったら、そのスポーツカーが買えるのに。)
- ② <If he had known the result,> he wouldn't have done that.
S V O S V O
(もし彼がその結果を知っていたら、あんなことはやらなかっただろう。)
- ③ <If I had studied English <harder><last year>>, I would get good result <in the exam>.
S V O S V O
(去年一生懸命英語を勉強していたら、今頃試験でいい成績が取れるだろうに。)